

災害対策計画策定のための研修会が開催

3月15日(水)14時からかながわ県民センターで開催された。岸部理事長は「近年東北や熊本など大きな地震が発生している。災害時いかに早く立ち直るかは自分の会社は自分で守るという信念のもとに対策を立て準備するかにかかっている。本日の講習会をその契機にしてもらいたい」と挨拶され、辻総務委員長の司会で始まった。まず、委員長から組合が制定した災害対策実施要綱の概略を説明し、各社が災害対策計画を策定して準備するよう促した。これに基づき各社がプランを作成する場合どのようにするか研修会が「神奈川県版BCP作成のすめ」をテキストとして中小企業診断士の中澤忠久氏によりシートを使いながら具体的に解説、作業指導があった。事業継続計画の方針決定、発生時の危機管理体制の確立、被害状況の確認、被害の想定、優先的に復旧する重要な事業の選定、復旧時間の想定など自社にとって必要な事項について



の注意点等が説明された。また、「事業継続計画を定めておくことは緊急事態に際してお客様への責任を果たし、従業員の安全、会社の信用を維持するためのもので、自社で実現可能な計画を作成し、実行性をもたせるため多くの人策定に関わり、避難などの訓練により従業員全員に浸透させる必要がある」と結んだ。また、発生時には従業員の安否確認が重要になるので、ドコモによる安否確認サービスシステムの紹介もあった。講習会には長野県組合の山邊理事長らも参加し、総勢32名だった。研修後役員らと山邊理事長を囲んで懇親会が開催された。

の注意点等が説明された。また、「事業継続計画を定めておくことは緊急事態に際してお客様への責任を果たし、従業員の安全、会社の信用を維持するためのもので、自社で実現可能な計画を作成し、実行性をもたせるため多くの人策定に関わり、避難などの訓練により従業員全員に浸透させる必要がある」と結んだ。また、発生時には従業員の安否確認が重要になるので、ドコモによる安否確認サービスシステムの紹介もあった。講習会には長野県組合の山邊理事長らも参加し、総勢32名だった。研修後役員らと山邊理事長を囲んで懇親会が開催された。

Mグレード部会総会

3月22日(水)16時から組合事務所で総会が開催された。司会の寺嶋副会長が定足数を満たしているとの報告で始まり、石井会長の議事進行で28暦年事業報告・決算、29暦年事業計画・予算が承認されて閉会した。総会后、この3月に猶予期間が終了する現場工事従事者の法定福利費加入問題について、現場労務費に0.16分を元請けの見積もりに別途計上して下請け会社に払うもの、現場従事者の標準報酬額に対する保険料率分で計算、一人親方の場合は建設国保プラス厚生年金保険に加入など情報交換がなされた。

役員会だより

3月15日(水)11時から組合事務所で役員会が開催された。

- ・ 廃業に伴い川崎支部所属の(株)井上鋼業が、また、西湘支部所属の(有)府川鉄工所の年度末での脱会が了承された。
- ・ 総会議案書案について一部修正した。
- ・ 合同支部会を11月11日(土)に箱根湯本の天成園で実施することを確定した。

全国RJグレード部会連絡会通常総会開催

3月10日(金)15時からナビオス横浜(中区新港)で全国RJグレード部会連絡会第14回通常総会が開催された。参加者は44名

全鉄評の山口社長を迎えて工場認定に係る性能評価の課題と題してRグレードの企業が工場審査に臨むに際しての注意事項などの講演があった。15時から総会



が開かれ、28暦年事業報告決算、29暦年事業計画予算案が承認された。また、山積み受注単価等調査報告の活用依頼があった。各県の部会の活動はあまり活発ではなさそうで、市況情報では相対的に、地元の仕事は薄い、手持ちも2か月で半年分が上限、会社により繁閑がある、公共の耐震がなくなってきた、単価的にも18万~26万とバラツキが大きい。

17時から懇親会が行われた。松枝会長は「横のつながりが強く、今後とも結束を深めて活動を強化していきたい」、

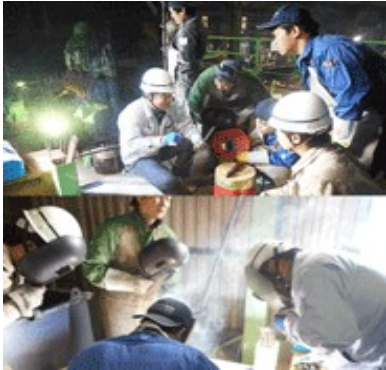
来賓の岸部関東支部長は「関係業界のなかでもわが業界はしっかりしている。図面等が不確かでも資質が良い鉄骨屋ならしっかり対応する。資格を取って差別化を図っていこう」と挨拶された。途中でMグレードに昇格され



脱会された2社が紹介されたが、2社とも「RJグレード部会の結束の固さ、情報交換の活発さなどが脱会してわかった。今後ともこのような会合には呼んでほしい」と挨拶があった。

県内工業高校教諭に対する溶接実習の実施

3月9日(木)13時から岸本建設工業において県内工業高校9校の機械科教諭15名に対し、溶接の講習及び実習が行われた。生徒に溶接を指導するに際し的確に指導できるよう実際に工場ではどのようにしているか学ぶために先生方から要請があったもので、当日は工場の概要説明と溶接についての基本的な説明及び工場見学を行った後、



4班に分かれて実習が行われた。工場の概要は岸部理事長、アーク溶接機の扱い方・注意事項などの基本的な説明は堀切幸夫県溶接協会副会長が行い、各班での実地指導は堀切講師、小原教育技術委員長、佐藤理事、岸本建設工業の亀井氏が担当した。まず被覆アーク溶接機で各人ごとに平板に溶接を行い、次に隅肉溶接を、最後に60度開先の9mmの裏当金ありの突合せ溶接の下向き溶接を行った。教諭のなかには手慣れた人、溶接の初心者など様々であったが、各人は3時間強の間休憩をとることもなく、真剣に溶接に取り組んでいた。最後には宍戸県立小田原城北工業高校副校長から感謝の意が述べられ、17時過ぎに散会した。



、岸本建設工業の亀井氏が担当した。まず被覆アーク溶接機で各人ごとに平板に溶接を行い、次に隅肉溶接を、最後に60度開先の9mmの裏当金ありの突合せ溶接の下向き溶接を行った。教諭のなかには手慣れた人、溶接の初心者など様々であったが、各人は3時間強の間休憩をとることもなく、真剣に溶接に取り組んでいた。最後には宍戸県立小田原城北工業高校副校長から感謝の意が述べられ、17時過ぎに散会した。

青年部・研修会の開催

3月18日(土) 14時から神奈川県中小企業センター13階会議室にて青年部平成28年度3月研修会が行われた。文化シャッター(株)による「軽量シャッター、重量シャッター、オーバースライディングドアの取付説明とシャッター下地について」の講習が行われ、次に日鐵住金建材(株)による「NDコア」「カドピタBF」の商品説明が行われた。約2時間半の研修の後、

関内の博多中州ちどり屋にて懇親会が行われた。来賓の岸部理事長から「日頃から勉強して技術の向上に役立てるのは良いことだ」というご挨拶を頂いた。参加者は総勢26名となった。[北條]



賛助会員だより No. 17

御見積の段階から工事まで最後までサポート致します。

明和建材株式会社

千葉県浦安市鉄鋼通り1-3-3
TEL 047(323)6336 fax 047(352)9450
Eメール hirata@iguchi-steel.co.jp
取扱商品



平田直也

ベースパック、フリードーナツ、球体ボイドスラブ、パイルスラッドなど
担当者 平田直也 080-3578-8055
担当者からのメッセージ

今年から神奈川県鉄構業協同組合の賛助会員になりました明和建材(株)の平田と申します。弊社は主にベースパックやフリードーナツなどの構造関係の商品を取り扱っている会社でございます。会社は千葉県浦安市にある鉄鋼団地の中にあります。最近では神奈川県方面の営業にも力を入れており、組合にも入らせて頂きました。ベースパックでは販売はもちろん施工の方もしっかりとサポートさせていただきます。難しい工事になりそうな現場に関しても見積もりの段階から施工方法などしっかりとサポートさせていただきますので是非宜しくお願い致します。フリードーナツも図面を頂いてからメーカーの方で耐力の検討から発注までしっかりとサポートさせていただきます。もし構造関係の商品のことで何かご協力できることがありましたら明和建材(株)の平田までお声をおかけください。

商品の紹介コーナー



ベースパックは弊社では販売と施工を承っており、お見積は図面を頂ければ即対応します。施工方法や金額など相談に応じます。物件が決まった後の材料の手配から工事の段取りまでしっかりさせて頂きますのでご安心下さい。



鉄骨H型鋼梁のウェブ貫通補強工法です。メーカーと協力してフリードーナツ適否検討

サービスを行っており、スリーブ面に基づき貫通孔位置の応力状態を仮定し、メーカーの方で適否検討して検討してから1日~2日で結果が出ますのですぐに商品を提供できます。

その他にも柱と梁の接合に使えるファブラックスや杭頭補強筋のNCPアンカーなども取り扱っており、アンカーは材料の手配から工事まで承っていますのでベースパックとセットでお見積も可能です。

